チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル（注１）	No.	タイトル	自治体名
	18_1/1_1	地域コミュニティ力の強化	兵庫県　西宮市
アイデア名（注 2）（公開）	「住人十色」な「NEO 自治会」～笠屋町自治会の第一歩～		

（注１）地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体（連合）が掲げる地域課題を記入してください。
（注 2）アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1．応募者情報

チーム名（公開）	ナルオレボリューション	
チーム属性（公開）	○ 1. 市民によるチーム　○ 2. 学生によるチーム　●3.市民、学生の混成によるチーム	
メンバー数（公開）	４名	
代表者情報	氏名（公開）	枝川友奈
メンバー情報		橘ひな乃 中村亮 葉山一輝 田村幸大

（注意書き）※　必ず応募前にご一読ください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1．　応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。　admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3．　公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja　をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

4．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません）

5．　この応募内容のうち、「３．自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

7．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

2．アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をする社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題＞

①自治会が閉鎖的で活動に入りにくい

②若い人が自治会や地域活動に無関心

③住民の声を自治会に届けにくい

④自治会が何をしているのか住民が把握していない

→上記の課題を解決し、笠屋町自治会が多世代の住民が主体的に参加している風通しの良い「NEO 自治会」に生まれ変わるための提案を行う

※主体的とは：住民が嫌々ではなく、自らの意思を持って地域活動に参加すること

※風通しのよさとは：自治会に多世代の住民の意見が反映されること

＜解決アイデアの内容＞

『笠屋町子どもまちづくり隊』

笠屋町自治会が参画している既存の地域イベント・行事に、現在の自治会役員・担い手が参加するのではなく、地域の子どもたちが参加しスタッフとして活躍

▼自治会活動の次期担い手であり、現在自治会活動に参加していない子育て世代の参加を促す

→子ども達に親や友人を巻き込んでもらうことで、親世代はこの機会に自治会の活動を知り、担い手と繋がる機会ができる！

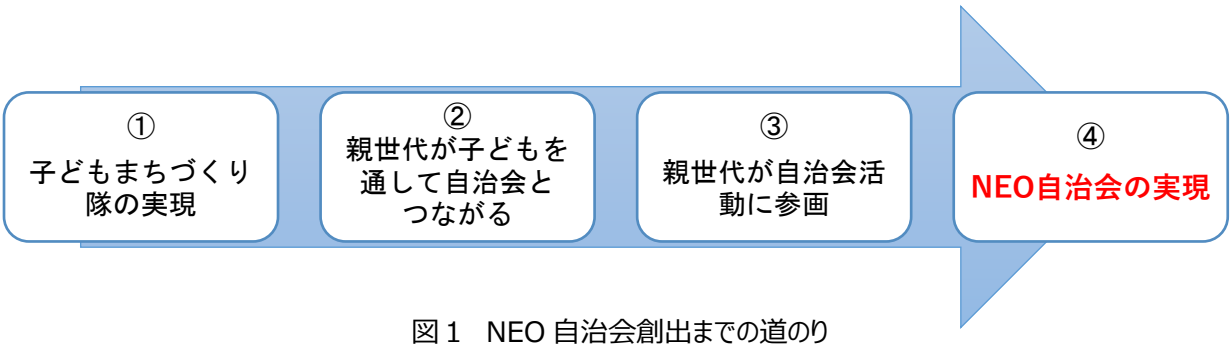


図１　NEO 自治会創出までの道のり

『笠屋町子どもまちづくり隊』のポイント

●主　　体　：笠屋町自治会／地域でまちづくりをしている団体　ex)NPO 法人なごみ、社会福祉協議会

●募集対象：小学生～高校生

●募集方法：チラシを掲示板や飲食店に掲示／子ども会の回覧板で広報

～既存の地域イベント（地域資源）との結びつき～

まちづくり隊を独立した組織として考えず、既存のイベントや団体との関係構築をすることで、地域を盛り上げる力になる！

～子ども会との違い～

子ども会のイベントの目的：子どもが楽しめる場の提供

まちづくり隊の目的：笠屋町に住む子どもたちが、自治会活動に参画する機会をつくること

▼子ども会に加入している多くの親は自治会役員との関わりがない。そのため「笠屋町子どもまちづくり隊」では、子どもが自治会活動へ参画する機会を生むことで、子ども会に参加する役員以外の親世代と自治会役員の新たな関わりを生むという目的がある

提案概要

① イベント実行委員会

・イベント開催に向けて実行委員会を２、３回設ける

・出店内容や役割分担を決め、準備を進める

・子どもまちづくり隊オリジナルの T シャツやバッジなどを作成

② イベントで子どもたちが出店

・4 月に開催される「さくらフェスタ」や、8 月に開催される「鳴尾東ふれあい夏祭り」、11 月に開催予定の「鳴尾ふぁみり～マルシェ」で子どもたちが出店

③ 反省会／打ち上げ・交流会

・イベント終了後に反省会を設け、次のイベントに活かす

・打ち上げでは、会場として笠屋町内にある飲食店を利用

→地域の飲食店も地域活動にかかわる仕掛けづくりをする

図２　さくらフェスタの様子

図３　鳴尾東ふれあい夏祭りの様子

①～③のサイクルを繰り返すことで、自治会役員や子ども、その親のつながりができる

～笠屋町子どもまちづくり隊の展望～

活動が地域で周知され子どもの応募が増えると、地域イベントへの参画だけでは活動に十分に関わることができなくなる…

図４　鳴尾ふぁみり～マルシェの様子

提案１：清掃活動への参画

子どもが参加することで、子どもの親も清掃活動に参加するきっかけになる

提案２：夜市の復活

笠屋町で 3 年前まで開催されていた夜市を復活させ、子どもまちづくり隊が参画

地域の飲食店などを巻き込むことによってさらに地域住民が活動に関心を持つきっかけに！

笠屋町子どもまちづくり隊が発展し、子育て世代などを巻き込んでいくことによって、多世代が自治会に関わるようになる。それによって自治会に多世代の意見が取り入れられる風通しの良い「NEO 自治会」へと生まれ変わる。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

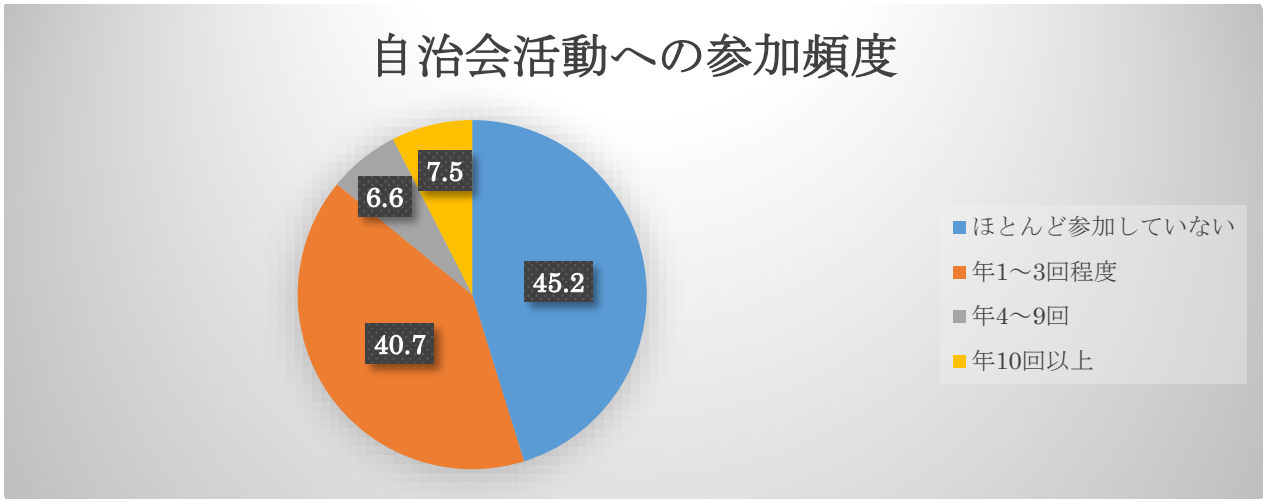
笠屋町自治会が「NEO 自治会」になるために

若い人から高齢者までの幅広い世代の住民が自治会活動に主体的に参加し、意見を言い合える場が必要

↓

現在、西宮市の自治会活動にはみんなどれくらい参加しているのか？

図 5 -1【自治会活動への参加頻度について】



出典：西宮市　平成 28 年　自治会等に関する市民アンケート調査報告書　5 ページ

このデータから西宮市約 86%の住民が自治会活動への参加が年に 3 回よりも少ないことが明らかに

⇒西宮市にある笠屋町でも同じことが言えるのではないかと仮説！！

↓

笠屋町の自治会長である山本泰望氏にヒアリング調査を行い、仮説を検証！！

①笠屋町自治会長へのヒアリング調査により、笠屋町でも自治会活動への参加者は少ないことが明らかに！

＋

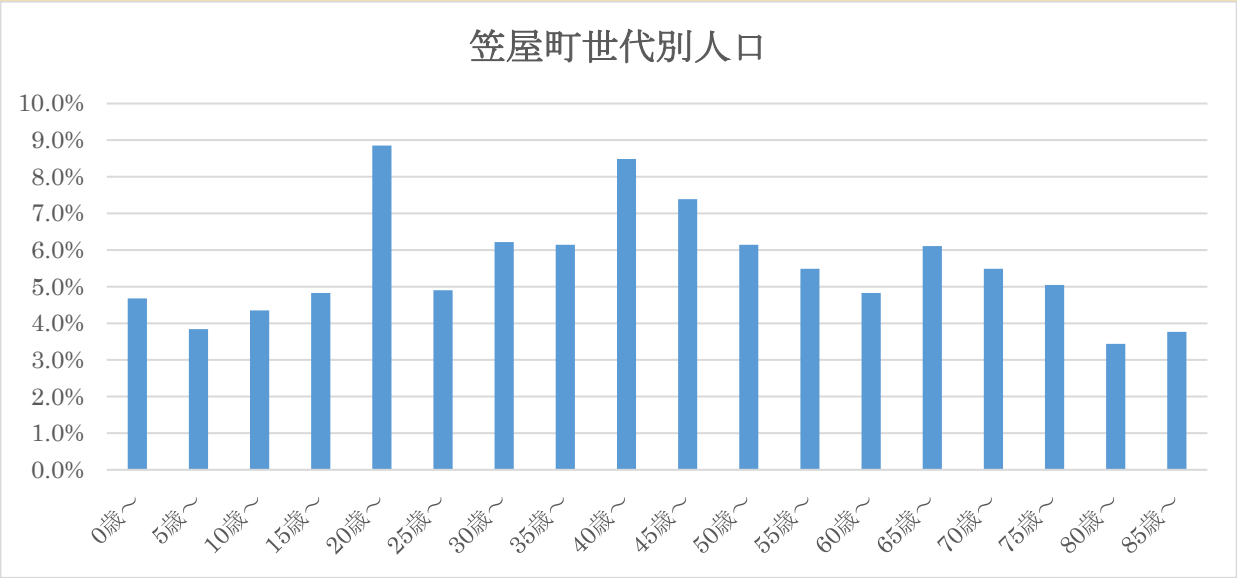
②参加者はほとんどが高齢者であることも判明！

（2019 年 5 月 30 日笠屋町自治会長へのヒアリング調査より）

↓

①住民の自治会活動への参加頻度を増やす工夫が必要

図５-２【笠屋町の世代別人口】



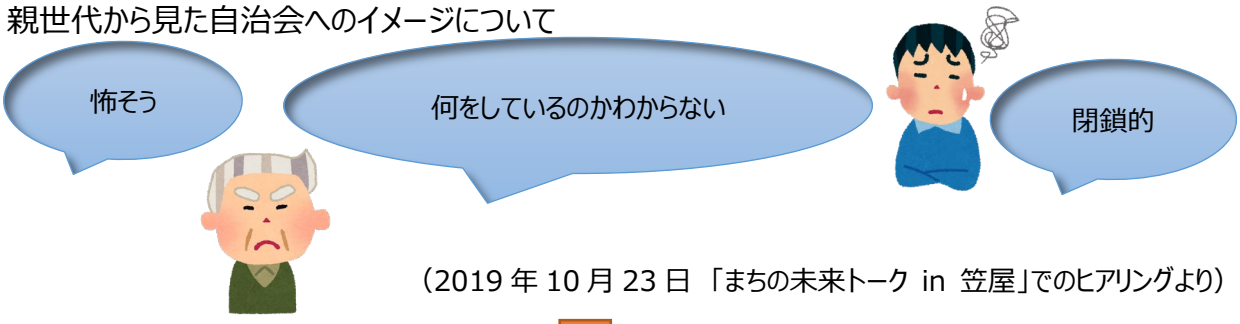
出典：西宮市　平成 29 年　住民基本台帳

このデータから、笠屋町の人口構成の内、高齢者（65 歳以上）はわずか 23.8%にすぎないことが明らかに！

➡②高齢者だけでなく、若い世代の住民も参加してもらう工夫が必要

【笠屋町の多様なステークホルダーを交えてワークショップを開催し、生の声を聴いてみた！】

Q 親世代から見た自治会へのイメージについて



（2019 年 10 月 23 日 「まちの未来トーク in 笠屋」でのヒアリングより）

以上のデータより、笠屋町自治会は多世代の住民が主体的に参加し、風通しがよい自治会とは言えない

〇笠屋町自治会を「NEO 自治会」にするためには

まずは、若い世代の人が自治会と関わる機会や、自治会のことを知ってもらう機会が必要！

しかし、いきなり若い世代に直接アプローチしても興味を待ってもらえないのではないか、、、

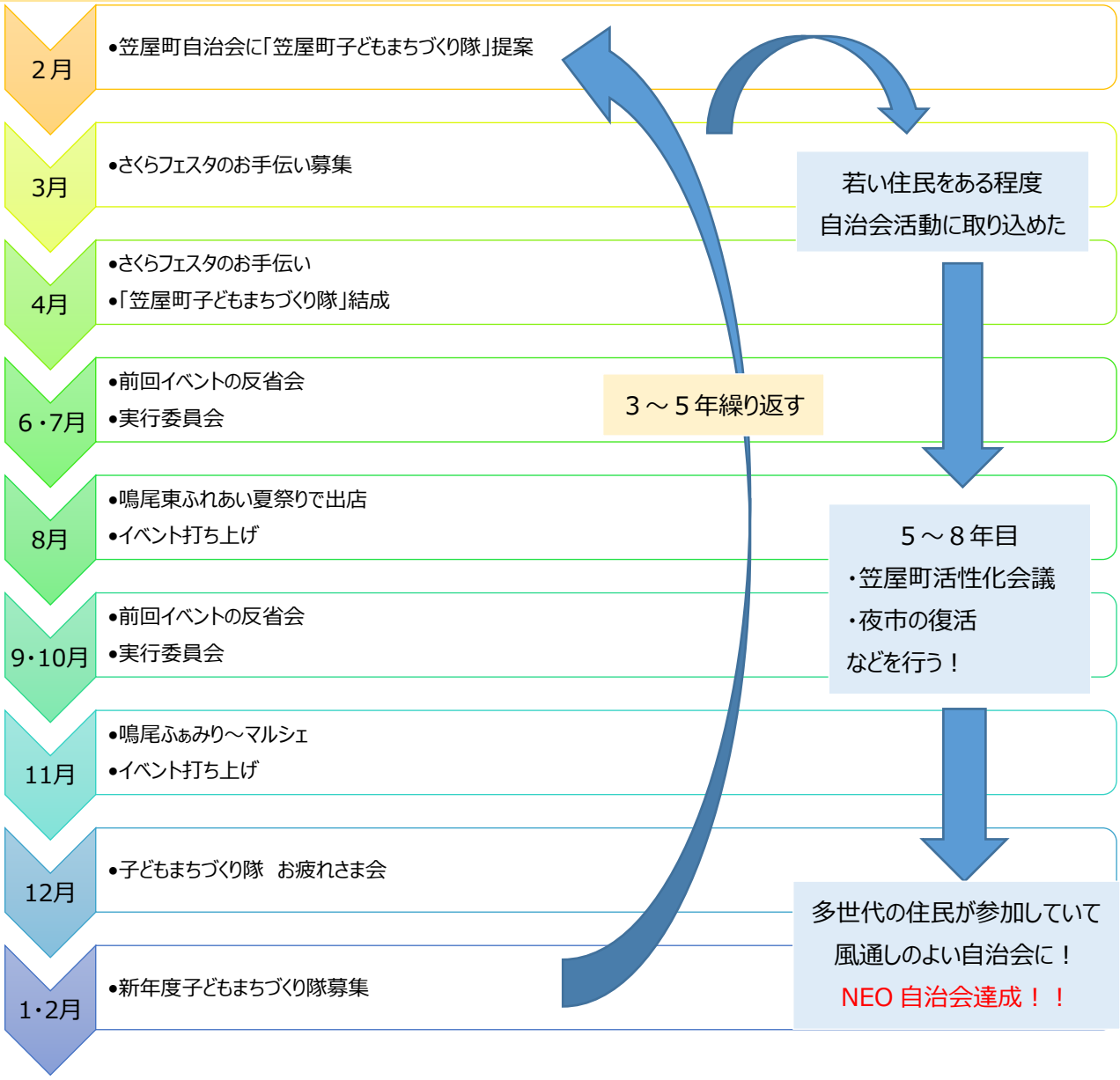
💡子どもが自治会活動に参画することで、子どもを通して親世代と自治会がつながることができるのではないか！！

「笠屋町子どもまちづくり隊」の提案！！

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス、**実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

アイデア実現までの大まかな流れ



収支計画

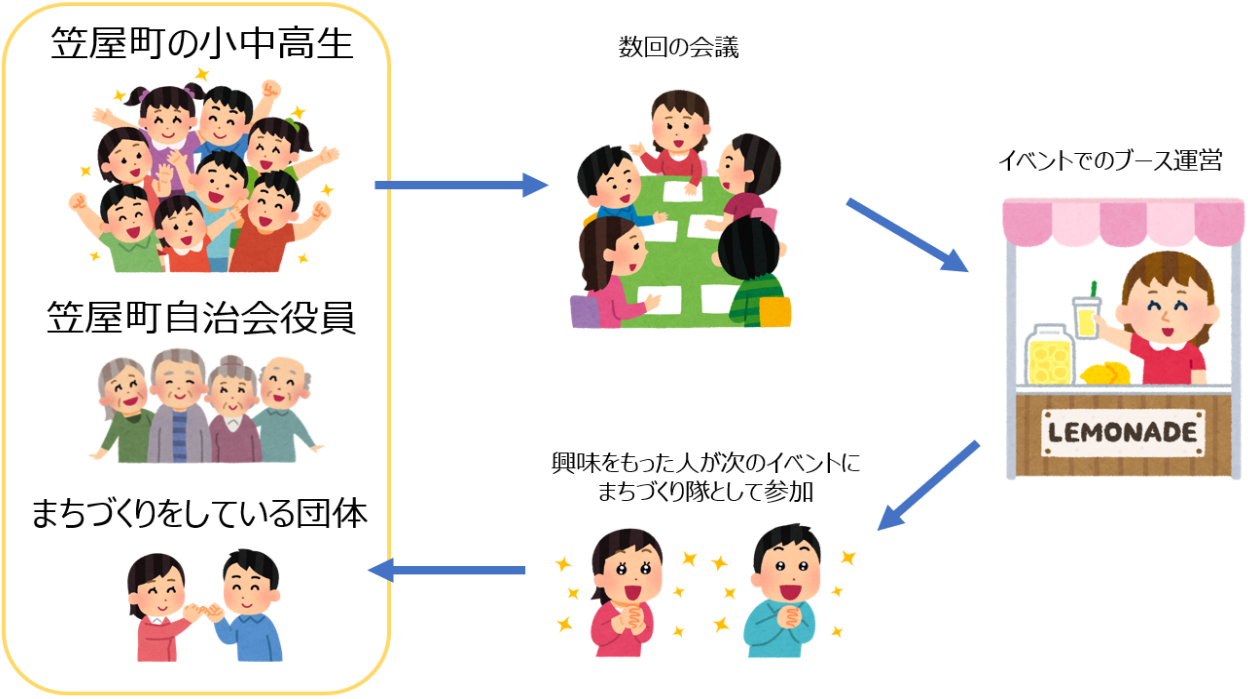
イベント	売上金	利益	次回繰越金
さくらフェスタ	5 千円 遊具 100 円×50 名	5 千円	5 千円
鳴尾東ふれあい祭り	2 万 5 千円 ドリンク 100 円×200 本 遊具 100 円×50 名	1 万 7 千円 ドリンク 60 円×200 本 遊具 100 円×50 名	1 万 2 千円 打ち上げ代 1 万円差引 さくらフェスタ 5 千円

※さくらフェスタや鳴尾東ふれあい祭りは出店料 2 千円を払うことで、残りの収益はすべて出店者に入る

さくらフェスタでのお手伝いで必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

実現に必要な資源		規模	調達方法
ヒト	笠屋町自治会役員	４名	自治会の定例会に参加し依頼
	小学生	３名	チラシを作成し子ども会の回覧板や掲示板で広報、笠屋町の飲食店での掲示
	中高生	２名	NPO 法人なごみのイベントに参加している学生に依頼
モノ	イベント時に置く机・椅子	４台と４脚	集会所から借りる
	遊具	５台	集会所の倉庫から借りる
カネ	イベント出店料	２千円	自治会費から支出

笠屋町子どもまちづくり隊で必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

実現に必要な資源		規模	調達方法
ヒト	笠屋町自治会役員	２名	自治会の定例会に参加し依頼
	地域でまちづくりをしている団体	２名	NPO 法人なごみや社会福祉協議会に依頼
	小学生	３～６名	さくらフェスタでの調達方法に加え、前回参加者に友人の勧誘を依頼
	中高生	２～４名	
モノ	イベント時に置く机・椅子	４台と４脚	集会所から借りる
	遊具	５台	集会所の倉庫から借りる
カネ	イベント出店料	２千円	自治会費から支出
	まちづくり隊チームＴシャツ	２万円 ２千円×10 名	自治会費から支出

「笠屋町子どもまちづくり隊」の運営体制